学　年	教科等	題材名	日　時
第１学年	図画工作科	ならべて　ならべて	令和５年 10 月 26 日(木) ５校時
研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成		
研究内容１の手立て	**【造形遊びをする活動において「つくり、つくりかえ、つくる」ための指導方法の工夫】** ①　事前準備:子どもの身の回りにあり、並べたくなるような物を、多目的室に意図的に配置しておく。 ②　題材との出合わせ方：全員の上靴をおもしろく並べる活動を取り入れ、物を並べる活動のおもしろさに気付かせることで、「もっと並べてみたい。」等の思いをもつことができるようにする。 ③　活動形態：一人でも、誰かと協力して活動してもよいとすることで、自分の思いを大切にして活動できるようにする。 ④　題材計画：前時の終末時に、並べる活動の工夫を鑑賞し、「もっと〇〇してみたい。」「次は〇〇してみよう。」等の思いを高めておくことで、本時は、思いの実現に向けて活動する時間を十分に確保できるようにする。 ⑤　活動を促す教師の言葉かけ：活動することができない子どもには、何に困っているのかを尋ね、仲間の様子を見たり、他の物を探したりするなどの助言をすることで、活動し始めるきっかけにすることができるようにする。 ⑥　次につながるふりかえり：自分にできたことや、もし続きができるならやってみたいこと、仲間の並べる活動の工夫を見て、自分もやってみたいと思ったこと等を、テキストや写真や動画でタブレット型端末に記録し、いつでも見返せるようにすることで、次の学習や日常生活につなげることができるようにする。		

○　子どもの姿からの報告

【①　事前準備】

写真のように、ペンや色鉛筆、紙コップやストロー、洗濯ばさみ等、形や色等に気付いて並べられるような物を、種類ごとに分け、子どもの周りを囲むように配置しておいたことで、②の全員の上靴をおもしろく並べる活動の後、「他にある物を並べてもいいのかな。」と発言した子どもがいた。その言葉をきっかけに、本題材の活動が始まった。何を並べるか、自分で考え、物を選択しながら活動する子どもの姿が見られた。

【②　題材との出合わせ方】

全員が上靴を脱いだ後、「みんなが脱いだ上靴をおもしろく楽しく並べられる？」と尋ね、子どもの思い付くままに並べさせた。丸や星等の形に並べたり、向きを変えたりするなどの並べ方を見付けている姿や、「他の物も使えそう。」といった意見を全体で共有することで、「他の物も並べてみたいな。」という思いをもっていた。

【上靴の並べ方を考えている子ども】

【③　活動形態】

活動形態を限定しなかったことで、何を並べるか、誰とするかなどを自由に選ぶことができた。そのため、子どもは、一人でやってみたいことを試したり、仲間の様子を見たり、仲間と一緒に楽しんで活動したりしながら、それぞれ、自分の思いに合った並べる活動を工夫してつくりだそうとする姿が見られた。

【④　題材計画】

前時の終末に、全体で鑑賞する時間を設けたことで、本時では、似ている活動をしている仲間と一緒に活動し始めたり、仲間の活動の工夫のよいところを真似したりしている姿も見られた。

【第１時：一人で、どうやったら崩さずに並べられるか試している子ども】

鑑賞の活動後

【第２時：仲間と一緒に、協力して、どうやったら崩さずに並べられるか試している子ども】

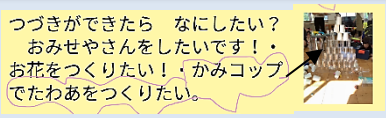
【⑤　活動を促す教師の言葉かけ】

活動することができていない子どもを中心に、「今何をしているの？」「今、どんな感じ？」「ここからどうなるの？」等と活動を促すような言葉かけをすることで、「次は、どうしようかなあ。」と考え始めていた。その後、様子を見に行くと、新たな活動を始めている姿が見られた。しかし、言葉かけが、活動をし始めるきっかけにならない子どもも数名いた。

【⑥　次につながるふりかえり】

自分にできたこと、続きができたらやってみたいこと等のふりかえる視点を与え、記録する時間を設けることで、写真やテキストに書き込みながら、自分にできたこと等を自分なりに整理する姿が見られた。

【子どものふりかえり①：並べた物が、手前にどんどん増えている様子を写真で記録したもの】



【子どものふりかえり②：仲間の活動の工夫（写真）を見て、自分もやってみたいと思ったことの記録】

○　考察

子どもの姿から分かること（〇…成果、●…課題）

〇　活動に対する思いをもたせることや、その思いを子ども自身が自分で実現させるために、材料や活動形態を選択できるようにすることは、発想や構想を繰り返しながら活動を工夫してつくりだす姿を表出させることにつながる（①②③④の姿から）。

〇　自分にできたことや、次にやってみたいこと等を記録させたことで、いつでも見返せるようになった。その記録を、今後の学習や日常生活にどのようにつなげていくか、研究を続けていきたい（⑥の姿から）。

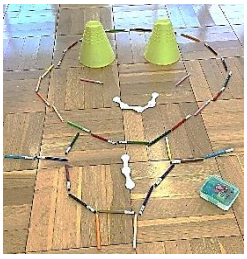
●　言葉かけにより、ある程度の子どもの活動を促すことができた。しかし、同じ言葉でも、活動を促すことができない場合もあった。どのような子どもにどのようなタイミングで、どのように言葉かけをするのが効果的なのか、今後検証していく必要がある（⑤の姿から）。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

身の回りにある物を並べる感覚や行為をとおして形や色等に気付き、手や体全体の感覚を働かせ、並べる活動を工夫してつくりだすことができる。

○　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　本時の活動の見通しをもつ。 ○　題材のめあて どんな並べ方ができるかな。 ○　本時の見通し ①　活動 ②　ふりかえり ③　片付け	
2　身の回りの物を並べながら、並べる活動を工夫してつくる（★）。 ○　並べる活動の工夫  【人の形をつくる】 【高く積む】 【長くつなげる】 【線路をつくる】 【物の形を魚に見立てる】	○　事前に配置されていた身の回りの物に加え、教室等から、自分で選んで持ってきた物を使ってもよいとすることで、新たな並べる活動の工夫を見付けることができるようにする。 ○　並べる活動の工夫は、一人でしても、誰かと協力してもよいとすることで、自分の思いを大切に活動することができるようにする。 ○　活動することができない子どもがいた場合は、何に困っているのかを尋ね、以下のように助言することで、活動し始めるきっかけにできるようにする。 困っている理由：使いたい物がない。 助言：「代わりに使えそうな物がないかな。」 「それを使っている人に、分けてもらうか、仲間に入れてもらったらどうかな。」　等 困っている理由：もうやりたいことがない。 助言：「ここまで、どんな並べ方ができたの？」 「他の人がやっていることを見て、おもしろいところを見付けてみようか。見付かったら教えて。」　等
3　本題材の学習をふりかえる。 ○　できたこと ・　「人の形ができたよ。」 ・　「ピラミッドができたよ。」 ・　「長くつなげたら、迷路みたいになったよ。」等 ○　もし、続きができるならやってみたいこと ・　「顔の形をもっとつくりたい。」 ・　「もっと高く積めるようになりたい。」 ・　「もっと長くつなげたい。」 ・　「○○さんが使っていた、洗濯ばさみをつなげてみたい。」　等	○　並べる活動の工夫を、写真や動画で撮影したり、テキストにかいたりすることで、自分にできたことが分かるようにする。 ○　もし、続きができるならやってみたいこと等を、テキストや写真、動画等で記録し、いつでも見返せるようにすることで、次の学習や日常生活につなげることができるようにする。

○　本時の評価規準

身の回りの物を並べながら、長くつなげたり、「○○をつくろう」と何かの形に見立てたりするなど、並べる活動を工夫してつくりだしている。　（知識・技能）【行動観察・行動分析】